

解答例 および 点数配分例

問1 表1に国民負担率（対国民所得比）の推移を示す。国民負担率（対国民所得比）は下記の式で表される。

$$\text{国民負担率} = (\text{租税負担額} + \text{社会保障負担額}) \div \text{国民所得}^{\text{注1}} \times 100$$

1) 国民負担率は、租税負担率と社会保障負担率の合計である。1990年度の社会保障負担率を小数第1位まで求めなさい。

10点

$$\left( \underline{10.7} \right) \% \quad 38.4 - 27.7 = 10.7$$

2) 2020年度の国民所得は1970年度の国民所得の何倍になっているか。最も近い値に丸をつけなさい。

5点

$$415.2 \div 61.0 = 6.806\cdots$$

~~6.0倍~~ ・ ~~6.4倍~~ ・ **6.8倍** ・ ~~7.2倍~~

3) 2020年度の国民負担率は1970年度の国民負担率の何倍になっているか。最も近い値に丸をつけなさい。

5点

$$44.6 \div 24.3 = 1.835\cdots$$

~~1.4倍~~ ・ **1.8倍** ・ ~~2.2倍~~ ・ ~~2.6倍~~

4) 図1に国民負担率・租税負担率・社会保障負担率の推移を折れ線グラフで表した。社会保障負担率の推移を示しているのは、選択肢A～Cのいずれか答えなさい。

10点

選択肢 ( A )

問2 歳出（国が使うお金）のうち、最も大きい割合を示す支出は「社会保障費」であり、2020年度当初予算では36兆円が計上されている。社会保障費とは、医療、年金、介護、生活保護、子ども・子育てのための費用に使用されている。

1) 図2「2020年度の歳出内訳」から、2020年度の総予算(合計102兆円)に占める社会保障費は何%か答えなさい。小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めること。

10点

$$\left( \underline{35.3} \right) \% \quad 36 \div 102 \times 100 = 35.29411\cdots$$

2) 表2「2020年度の社会保障費の内訳」から、社会保障費(36兆円)に占める「医療」「介護」の費用は何%か答えなさい。小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで求めること。

10点

$$\left( \underline{43.6} \right) \% \quad (12.3 + 3.4) \div 36 \times 100 = 43.61111\cdots$$

問3 高齢者数がピークを迎える2040年に向け、医療や年金、介護などの用途において社会保障費の増大が見込まれる中、持続可能な社会保障の仕組みを整えることが日本の急務である。少子高齢化社会において、生産年齢人口<sup>注2</sup>が減少の一途をたどる今、介護・年金を初めとする社会保障は高齢者が享受し、少ない人口でそれを支える生産世代の負担感が高まるばかりである。国民負担率が40%を超えているということをつかりやすく言うと、月給30万円の場合12万円を超える金額を公的負担として納めなければならないということである。生産世代は最も消費を行う世代でもあり、経済の活性化に寄与している。つまり、生産世代

の公的負担が増え自由に使えるお金が減ると国の経済が回らなくなるため、生産世代にこれ以上の負担を強いることは難しい。

このような状況の中、持続可能な社会保障を行っていくために今後日本はどのようにすべきか、下記のキーワードを参考に、理由とともにあなたの意見を述べなさい。なお、解答は 400 字以内にまとめなさい。

**キーワード：**健康寿命の延伸、社会保障費、医療保険、介護保険、年金

**50 点**

- 10 点 対策として具体的で妥当なものが1つ以上書かれている。
- 10 点 その理由が書かれている。
- 10 点 文章内容の辻褄があっている。
- 10 点 文章の体裁が整っている。
- 10 点 文字数が360文字以上書かれている。
- 3 点 誤字・脱字、不明な文字（1ヶ所につき）
- 5 点 倫理に反している